

第96回ゴ一宣道場

# 「皇室スキャンダルと国民」

---

令和3年4月11日

笹 幸恵



# 平成に見る 皇室 バッシング



## 上皇・上皇后 両陛下

雲仙普賢岳の噴火に伴う被災地訪問

週刊誌記事による  
バッシング→失声症

阪神淡路大震災の被災地訪問

皇室典範に関する有識者会議

東日本大震災の被災者を慰問

公務負担軽減等に関する有識者会議

天皇ロボット論

女性、女系天皇反対論（血統、Y染色体）

## 天皇・皇后 両陛下

朝日新聞「雅子さま懐妊の兆候」が一面トップに→稽留流産

週刊誌記事による皇太子一家へのバッシング

宮内庁長官「やはりもう一人は欲しい」

愛子さま不登校問題

雅子妃、带状疱疹

「人格否定発言」

雅子妃、適応障害→療養生活に入られる

## 秋篠宮・同妃 両殿下

眞子さまご誕生

佳子さまご誕生

週刊誌による紀子さまバッシング

佳子さまフィーバー

眞子さまご婚約

小室氏バッシング

## 皇室事件簿①

# 美智子さま 失声症

平成5（1993）年

## 美智子皇后＝「女帝」

- 禁欲的だった先帝陛下に比べてダンスやテニス.....ブルジョア趣味。
- 夜中まで友人と歓談、用事を言いつけられる。
- 両陛下の行幸はまるでフルムーン旅行。
- お召し替えのため職員たちは洗濯とアイロン掛けに追われる。
- 天皇は「アチラ」に気を遣って物事を決める。皇后陛下は、最近では自他ともに認められる宮中の最高権力者。



『サンデー毎日』 1993.6.27



『宝島30』 1993.8



『週刊文春』 1993.9.23

# 皇太子殿下 「人格否定」 発言

平成16（2004）年

「この10年、自分を一生懸命、皇室の環境に適応させようと思いつつ努力してきましたが、私が見るところ、そのことで疲れ切ってしまっているように見えます。それまでの雅子のキャリアや、そのことに基づいた雅子の人格を否定するような動きがあったことも事実です」

デンマーク・ポルトガル・スペイン語訪問に際し（皇太子殿下記者会見）2004.5.10

## 皇太子への諫言



- 「後ろ髪を引かれる思いで・・・」外交的配慮を欠いている
- 「マイホーム」を大切になさっている

「御皇室のありかたは、御皇室の方々が考えられるべきものではない。多くの国民が御皇室の期待するのは、その時々風潮がどうあろうと、御皇室の古い豊かな伝統を守られることである。そして御皇室のあり方は、国民が決めることである」



『Will』 2005.2

『週刊新潮』 2011.3.10



# 皇太子への「御忠言」シリーズ（2008年）



『WILL』 2008.5



『WILL』 2008.6



『WILL』 2008.8



『WILL』 2008.9



『WILL』 2008.10

# 雅子さま 適応障害 御静養

平成16（2004）年～



『週刊新潮』 2006.1.5/12

- 雅子さま「離婚説」
- 宮中と東宮の対立
- 「公務欠席」「私事出席」はワガママ
- ディズニーランド訪問で女性週刊誌も批判記事を書けるように



『週刊新潮』 2006.1.26



## 皇后にふさわしいのは「雅子妃38%」「紀子妃62%」の衝撃

- 公務に優劣をつけるような皇后では困る
- 国民より自分を優先しすぎ
- 公務のえり好み、レジャー三昧

『週刊文春』 2013.6.13

雅子妃 = 「プリンセス・ニート」



# 天皇 「生前退位」

平成28（2016）年

## 天皇ロボット論

- 摂政を置けばいい
- 憲法4条「国政に関する機能を有しない」に反する
- 二重の権威、皇室の不安定化につながる
- 天皇は皇居の奥で祈っていればいい

これから先、従来のように重い務めを果たすことが困難になった場合、どのように身を処していくことが、国にとり、国民にとり、また、私のあとを歩む皇族にとり良いことであるかにつき、考えるようになりました。既に80を越え、幸いに健康であるとは申せ、次第に進む身体の衰えを考慮する時、これまでのように、全身全霊をもって象徴の務めを果たしていくことが、難しくなるのではないかと案じています。

象徴としてのお務めについての天皇陛下のおことば（平成28年8月8日）



『Will』 2016.9



『正論』 2017.1

# 眞子さま 小室さん 婚約内定

平成29（2017）年

- 皇室利用、ロイヤルパワー全開で生きていくことがミエミエ
- 眞子さまは皇籍を離脱し、国民の血税を辞退せよ
- 破談になることが最も望ましい
- 秋篠宮は今上陛下に迷惑かけているのに詫びすらない
- 秋篠宮家ごと皇籍離脱せよ

## 眞子さま洗脳!? 秋篠宮家批判

様々な理由からこの結婚について否定的に考えている方がいらっしゃることも承知しております。しかし、私たちにとっては、お互いこそが幸せな時も不幸せな時も寄り添い合えるかけがえのない存在であり、結婚は、私たちにとって自分たちの心を大切にし守りながら生きていくために必要な選択です。

眞子さま 結婚についての「お気持ち」文書（令和2年11月13日）

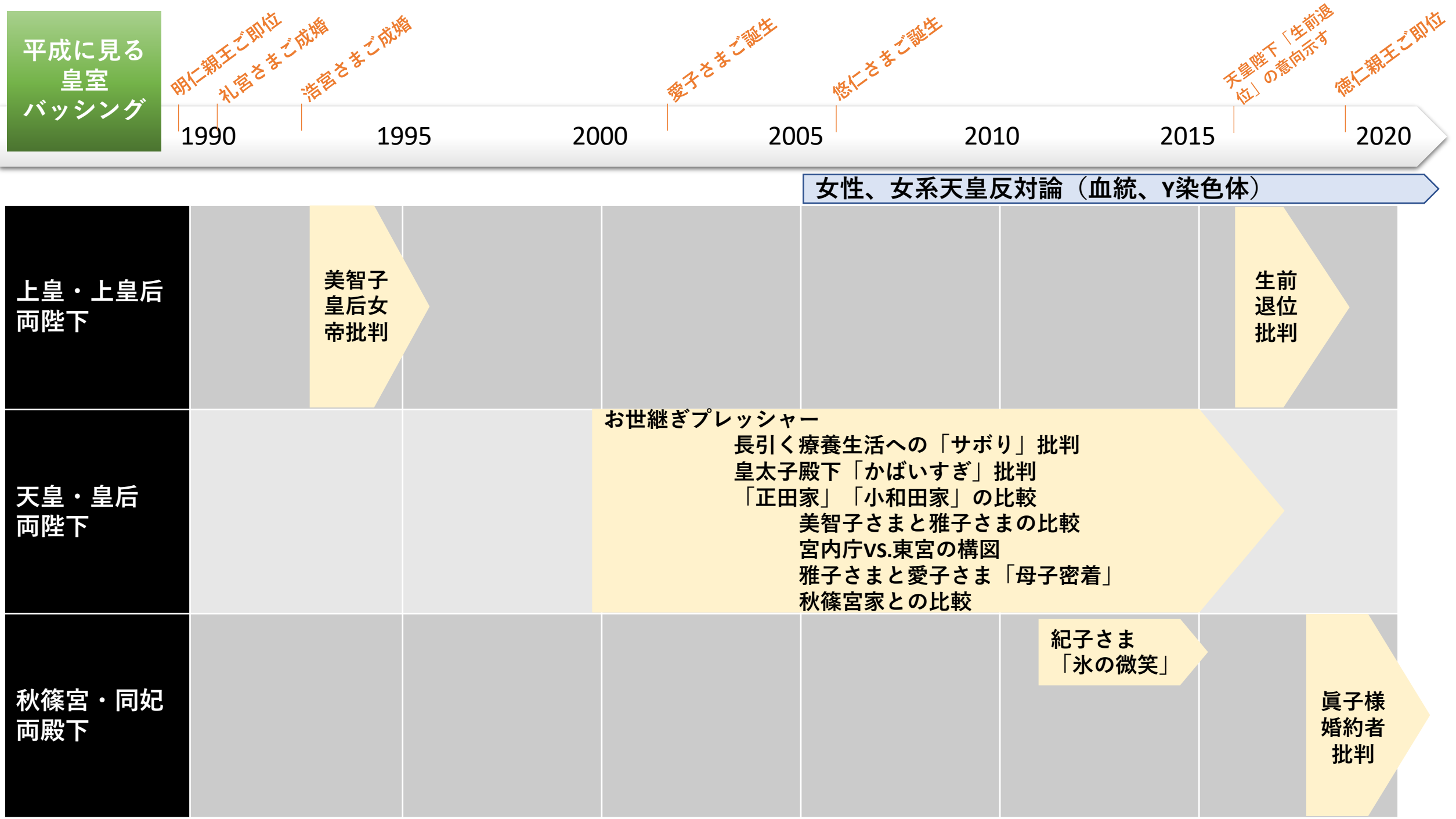


『週刊文春』 2019.1.31

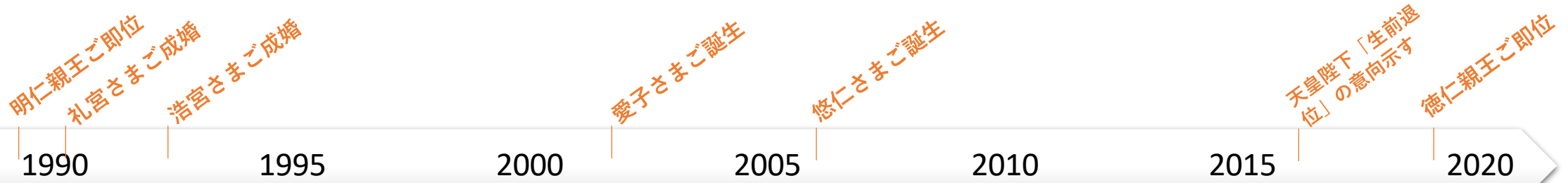


『週刊朝日』 2021.3.26





平成に見る  
皇室  
バッシング



女性、女系天皇反対論（血統、Y染色体）

|               |                   |  |                                                                                                                                   |  |                |  |                  |
|---------------|-------------------|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|----------------|--|------------------|
| 上皇・上皇后<br>両陛下 | 美智子<br>皇后女<br>帝批判 |  |                                                                                                                                   |  |                |  | 生前<br>退位<br>批判   |
| 天皇・皇后<br>両陛下  |                   |  | お世継ぎプレッシャー<br>長引く療養生活への「サボリ」批判<br>皇太子殿下「かばいすぎ」批判<br>「正田家」「小和田家」の比較<br>美智子さまと雅子さまの比較<br>宮内庁vs.東宮の構図<br>雅子さまと愛子さま「母子密着」<br>秋篠宮家との比較 |  |                |  |                  |
| 秋篠宮・同妃<br>両殿下 |                   |  |                                                                                                                                   |  | 紀子さま<br>「氷の微笑」 |  | 眞子様<br>婚約者<br>批判 |

スキャンダル＆  
バッシング記事  
に見る変化

嫁姑問題など  
皇室一家への  
下世話かつ好  
奇の視線

妊娠・出産へ  
の無理解、女  
性の尊厳の否  
定

「皇室を愛す  
ればこそ」と  
いったエクス  
キューズ

自称保守派に  
よる“上から  
目線”

皇室への意見  
表明は当然の  
権利？

## 「権利としての凡庸」の押しつけ（オルテガ『大衆の反逆』）

問題は、大衆的人間が愚かだということではない。まったく反対に、現代の大衆的人間は利口で、他のいかなる時代の大衆よりも知的能力がある。しかし、この能力はなんの役にも立たない。厳密に言って、それを所有しているという漠然たる感覚は、ますます自己の内部に隠れ、それを使用しないことにだけ役だっている。年がら年じゅう、できあいの決まり文句、偏見、観念の枝葉末節、簡単にいえば、偶然かれの頭のなかにたまった空虚なことばをたいせつにして、天真爛漫だからとでもいうほか理解できない大胆さで、そういうことばをなににでも押しつけるのである。

スキャンダル  
& バッシング  
記事を集めた  
方々の声

「事実をねじ曲げてスキャンダラスに表現した記事が日々出てくることに驚きました。そして、『税金で養ってやってる』と言わんばかりのネット上のコメントの数々に、怒りを感じました」

（中四国支部副隊長てるてるさん）

「悪質な記事の多さに、怒りに震えながらの作業でした。記事を書くのも悪いですが、興味本位のゴシップ趣味で皇室を消費してしまう国民の罪も重いと思いました」

（北海道支部BATAさん）

「記事収集は精神が削られる辛い作業でした。第三者が読んで辛くなる罵詈雑言、皇室の方々の苦しみは、いかばかりでしょう。それを放置してきた我々の責任も痛感しました」

（匿名希望さん）

「いろんなものに対して怒りが込み上げてきた収集活動でした。自己意識が肥大したバッシング者に、信念なく醜悪記事をあげるマスコミに、その状況をただ消費して楽しむ国民に。そして何よりも、今まで黙っていた自分自身に」

（関東支部まーさん）

「スキャンダル・バッシングのまとめ作業を通して、最後の最後に思った事を述べます。美智子さま、心無いバッシング、国民として大変申し訳ありませんでした。それにもかかわらず、皇后を全うしていただき、本当に、本当にありがとうございました。美智子さまが皇后で良かったです。どうか、お幸せに、長生きしてください。

雅子さま、無責任にも「祝賀御列の儀」の時の笑顔に安堵いたしました。どのような事があっても、必ず味方をする国民はいると、どうか、思っていてください。

陛下や皇室の皆様、数々のバッシングにも惑わされない国民がいることを、どうか、信じていてください」（新潟県支部副隊長JIMさん）